

関西医科大学 広報

滝井病院は「関西医科大学総合医療センター」へ



新本館
OPEN

枚方病院は「関西医科大学附属病院」へ



新名称でいよいよ始動

Vol.33

CONTENTS

法人：総合医療センターまもなくオープン 附属枚方病院名称変更	P.1～	病院：ペッパー導入	P.17
法人：就任者および退任者紹介	P.3～	附属看護専門学校：卒業式、入学式	P.19
大学：卒業式、入学式、配属実習レポート	P.7～	同窓会：国家試験応援史	P.22

枚方病院と滝井病院の新しい歴史が始まりました

2016年春、本学の附属病院は大きく進化します。

附属滝井病院は、2013年に始まったリニューアル事業計画の一環で、5月1日(日)、名称を「関西医科大学総合医療センター」へ変更し、5月6日(金)、旧専門部学舎跡地に新本館をオープンさせます。

さらに本学の本院である附属枚方病院は、4月1日(金)をもって、名称を「関西医科大学附属病院」と改め、新たなスタートを切りました。

そこで今回は、新名称に反映された本学のビジョン、新しい施設の概要や今後の展開などを紹介します。

関西医科大学総合医療センター新本館オープンにあたって

病院長 岩坂 壽二

春の陽光を浴びてふくろうと副章をあしらったステンドグラスが輝く新本館は病院名称を「関西医科大学総合医療センター」と改称し、5月6日、夢と理想に向かってスタートします。

総合医療センターは建学の精神である慈仁心鏡に則り、呼吸器外科の新設などを計り、あらゆる疾病に高度で先進的な医療を提供出来る施設に生まれ変わります。

また、連携各科がチーム医療を実践するため、22のセンターを有しています。

その中の幾つかを紹介します。救命救急センターはICUの拡充と世界初の機能を持つIVR/CTを備えたハイブリッド手術室を有し、大阪府民の救急は断ることなく、あまねく治療する姿勢を貫いています。心臓血管病センターは診療教授の招聘を含め更なる充実を目指します。がんに関しては、PETセンター、内視鏡センター、肝臓病センター、プレストセンター、甲状腺外科センター、化学療法センター、がん治療・緩和ケアセンターが高度医療を実践します。高齢化への対応として、遠方から多くの患者さんが来られる脊椎神経センター、人工関節センター、網膜硝子体センター、リハビリテーションセンター、健康科学センターは健康寿命を延ばすことをスローガンにしています。

外来診療では患者の利便性と負担費用軽減を図るため院内調剤に変更します。



ハード面で特筆すべきは手術室です。11室を有し、回収廊下で患者と不浄な物を分離し、3D画像で行う内視鏡専用手術室、関西初の輻射熱式空調を備えた眼科専用手術室などです。

そして、医療センターは精神科が推進するリエゾン精神医学を実践し、高度医療の隙間に潜む患者の不安、恐れ、失意を軽減し、安心して医療を享受できる環境を作ることに傾注しています。

新本館296床と南館、北館を合わせた計477床を有する総合医療センターは主として守口市・門真市、旭区、城東区、鶴見区、東淀川区の住民の健康維持に寄与し、地域医療機関との連携をさらに促進する考えです。

総合医療センター内装工事進捗状況

新本館の内装工事がおおむね完了。5月の大型連休中に医療機器や什器の運び込みを行い、いよいよ患者さんを迎える準備が整います。ここではひと足先に、内部の様子を写真でご紹介します。



機能的に配置された外来受付



明るく開放的なエントランス



診察室の周囲も余裕のある設計

「関西医科大学附属病院」の新名称について

病院長 澤田 敏

関西医科大学附属枚方病院は平成28年4月1日から新たに「関西医科大学附属病院」へと名称変更をいたしました。これまで多くの方々に「関西医大枚方病院」という略称で慣れ親しみ、世間で認知されてきた名称を何故変更するのか、また、何故この時期の変更なのかなどについて、広く皆様方のご理解をいただきたく思い、本誌のスペースを頂きました。

まず、関西医科大学と附属病院の歴史的背景からご説明させていただきます。

関西医科大学は創設の地である大阪府枚方市牧野地区から昭和35年1月に大阪府守口市文園町10番地に引越して参りました。その時、すでに昭和7年4月に建設されていた病院を関西医科大学附属病院(旧本院)となし、その後の増改築を経て、旧附属病院は大学とともに発展して参りました。しかし、時代の変遷を経て、この滝井地区の旧大学附属病院は施設・設備の老朽化が問題となり、様々な建て替え計画が立案され検討されてきましたが、ただ、敷地の狭隘化がネックとなり、最終的には現在地である大阪府枚方市新町2丁目に新たに病院を建設し、本院機能を移転することが決定されたわけです。平成18年1月1日に新たな本院が開院いたしました。

この新しい大学附属病院(新本院)はその名称を滝井地区にあった旧大学附属病院と区別し、また、枚方市へ

移転したことを強調する意味で「関西医科大学附属枚方病院」と命名されました。なお、この時点で滝井地区に残った病院は分院として「関西医科大学附属滝井病院」と改名されております。その後、関西医科大学附属滝井病院は、その分院機能を発揮し地域に密着した特色ある急性期中核病院となるため、施設整備と建て替えが行われ、平成28年5月1日より新たに「関西医科大学総合医療センター」として生まれ変わることとなりました。これにより、関西医科大学附属枚方病院はその病院名から「枚方」の文字を取り除いて「関西医科大学附属病院」と呼称しても、関西医科大学附属滝井病院(分院)と混同されることもなくなりました。

このような経緯で、このたび正式名称を「関西医科大学枚方病院」から「関西医科大学附属病院」へと改めました(正式名の「関西医科大学附属病院」のほかに略称として「関西医科大学病院」あるいは「関西医大病院」と呼称していただいても構いません)。今後は文部科学省に属する医育機関である「関西医科大学」に附属して設置された厚生労働省管轄の大学附属病院として、また、名実ともに日本の医学界をリードする医科大学附属の「本院」として、その機能と使命を果たすべく一層の努力をして参ります。

新しくなった「関西医科大学附属病院」をよろしくお願いたします。

附属病院小児医療センターについて

平成27年9月、附属病院に小児医療センターが開設されました。設立後半年が経過し、改装工事も完了しました。

小児医療センター開設から半年を迎えて

センター長 金子一成

附属病院に小児医療センターが開設され半年が過ぎました。開設後は、内科系疾患(小児科が担当)であるか、外科系疾患(小児外科、小児脳外科、小児循環器外科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科や眼科が担当)であるかを問わず原則15歳未満の子どもの患者は小児医療センターに入院するようになりました。センターには小児医療専門のスタッフのみならず、小・中学校の教員や保育士が常駐し、医療のみならず、遊びや勉強など、日々成長する子どもに必要な環境を可能な限り整えました。またセンター開設によって小児患者を診療する外科医と内科医の垣根がなくなり、緊密なコミュニケーションを取りながら治療方針を決定できるようになりました。さらにセンター開設を機に、たくさんの動物があふれる賑やかな明るいペインティングを病棟の壁に施しました(写真)。入院中の親子が壁に描かれた動物を見ながら笑顔で会話する姿を目にすることが増え、保護者の満足度も確実に上がっていることを実感しています。事実、小児医療センター開設後は入院稼働率も上昇し、最近では常に100%近くを維持していますが、この実績に甘んじることなく、「子どものためには何でもしよう」を合い言葉にスタッフ一同、日々、創意工夫を心がけています。



麻酔科学講座教授に就任して

麻酔科学講座 教授 上林 卓彦



平成28年4月1日付で、関西医科大学麻酔科学講座の主任教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。諸先輩方が築き上げてこられた伝統ある教室を主宰させていただくことになり、大変

光栄に思うとともに、その重責に身の引き締まる思いです。

私は昭和62年に大阪大学医学部を卒業後、臨床面では大阪大学医学部附属病院を始めとして、大阪警察病院、国立循環器病センターなどにおいて臨床経験を積みました。研究面では大阪大学大学院在学中より一貫してカテコラミンと循環をテーマとし、エピネフリン不整脈の発生機序、アドレナリン受容体の立体構造の解明、脳死モデルにおける臓器保護などについての基礎研究、循環並びに心臓麻酔に関する臨床研究を遂行いたしました。運営面においては大阪大学医学部麻酔科において平成11年より平成20年まで9年間に渡り医局長を務め、研修制度の変化やマンパワーの不足などへの対応に尽力し、手術数の増加という病院のニーズに 대응してまいりました。

近年、医療の高度化や人口の高齢化などで手術件数は増加の一途をたどっており、それに対応するために麻酔科のマンパワーを質・量ともに充実させる必要が生じております。研修制度が変更されて以降、各大学病院における麻酔

科医師の不足が全国的に深刻な問題になっておりますが、それは麻酔科医師の絶対数の不足によるものではなく、大学以外の施設へのマンパワーの偏在、不働化が大きな原因と思われまます。臨床・教育・研究を一層充実させ、麻酔科研修施設としての関西医科大学の魅力さをさらに高めることが麻酔科医師不足の状況を改善することに繋がると考えて、教室の運営と発展に全力で取り組んでまいりたいと思っております。

今後ともご指導、御鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和62年 3月	大阪大学医学部卒業
昭和62年 7月	大阪大学医学部附属病院麻酔科医員(研修医)
昭和63年 7月	阪南中央病院麻酔科医員
平成元年 4月	大阪大学大学院医学系研究科博士課程入学(外科系麻酔科学)
平成5年 4月	大阪大学医学部研究生(麻酔科)
平成5年 7月	大阪警察病院麻酔科副医長
平成7年 4月	大阪大学医学部助手(麻酔科)
平成7年12月	米国スタンフォード大学麻酔科研究員
平成10年 2月	大阪大学医学部助手(麻酔科)
平成10年 7月	国立循環器病センター厚生技官医師(麻酔科)
平成11年 7月	大阪大学大学院医学系研究科助手(麻酔科)
平成23年 4月	大阪大学大学院医学系研究科講師(麻酔科)
平成28年 3月	大阪大学大学院医学系研究科准教授(麻酔科)
平成28年 4月	関西医科大学麻酔科学講座主任教授

心臓血管外科学講座心臓血管外科担当診療教授に就任して

心臓血管外科学講座心臓血管外科担当 診療教授 細野 光治



平成28年4月1日付けで心臓血管外科学講座心臓血管外科(滝井病院)担当診療教授を拝命しました。新しい職責にあたり、自分自身の新たな挑戦への希望に胸が膨らむとともに、身の引き締まる思いを日々感じております。

附属滝井病院は本年5月より新病院が完成し、名称も関西医科大学総合医療センターとなります。また、新病院での心臓血管病センターの立ち上げもあり、新しい病院像を形成する良い機会でもあります。新しいものを作り上げ軌道に乗せていくという仕事は、多くの困難もあると共に、やりがいのある仕事でもあります。川副浩平センター長のもと、循環器内科・末梢血管外科部門と連携を図り、心臓・血管病に総合的に対応できる充実したセンター機能を発揮できるよう尽力する所存です。

心臓血管外科手術は急速に進歩しており、ステントグラフトや小開胸心臓手術・低侵襲手術など治療の選択肢も幅広く、患者様のニーズも多様化してまいります。新しい治療も積極的にとり入れ、患者様・地域社会・医学の進歩に貢献できる心臓血管外科を目指していきたいと考えております。心臓血管外科の手術は、センター内の2科のみならず、麻酔科・手術室・ICU・救急部門・放射線部門・臨床検査・リハビリテーションなどの各医師・看護師・臨床工学士・コメディカルスタッフ全てとの連携で成り立つ部門

です。各部門・スタッフと密接な連絡と良好な関係を築き診療にあたりたいと思っております。

関西医科大学という大学機関で働く機会を頂き、臨床はもちろんのこと、教育・研究にも力を注ぎたいと考えております。附属滝井病院担当となりますが、湊直樹教授のもと、関西医科大学の発展に貢献できるよう努力する所存ですので、何卒よろしく申し上げます。

略歴

平成6年 3月	大阪市立大学医学部卒業
平成6年 5月	大阪市立大学第2外科入局
平成6年 5月	大阪市立大学医学部附属病院臨床研修医
平成8年 4月	大阪市立大学大学院医学研究科博士課程入学
平成12年 3月	大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了・学位取得
平成12年 4月	大阪市立総合医療センター心臓血管外科前期臨床研究医
平成13年 5月	アムステルダム大学Academic Medical Center留学
平成14年 5月	大阪市立大学医学部附属病院第2外科後期臨床研究医
平成18年 4月	大阪市立総合医療センター心臓血管外科後期臨床研究医
平成20年 1月	大阪市立大学医学部附属病院心臓血管外科病院講師
平成20年 7月	大阪市立大学大学院医学研究科循環器外科学講師
平成27年10月	大阪市立大学大学院医学研究科心臓血管外科学准教授
平成28年 4月	関西医科大学心臓血管外科学講座心臓血管外科担当診療教授

関西医科大学看護学部開部に向けて

平成27年4月、本学に4年制看護学部・大学院(博士課程前期・後期)を新設するための「看護学部設置準備室」が設置されました。現在、平成30年4月の開部に向けて各種準備が進められています。

ここでは、平成28年4月1日付で看護学部設置準備室教授に就任した2名をご紹介します。



加藤 令子

看護学部設置準備室教授

昭和55年3月 慈恵看護専門学校1部卒業
 昭和55年4月 東京慈恵会医科大学附属病院看護師
 昭和58年4月 埼玉県立小児医療センター看護師
 平成9年3月 専修大学法学部法律学科卒業
 平成14年3月 兵庫県立看護大学大学院博士課程修了・学位取得
 平成14年4月 社団法人日本看護協会認定部部长
 平成17年4月 茨城県立医療大学保健医療科学研究科修士課程 教授
 平成22年4月 国際医療福祉大学大学院保健医療科学研究科
 博士課程教授
 平成23年4月 共立女子短期大学看護学科教授
 平成25年4月 共立女子大学看護学部看護学科教授



瀬戸 奈津子

看護学部設置準備室教授

平成2年3月 金沢大学医療技術短期大学部看護学科卒業
 平成2年4月 金沢大学医学部附属病院看護師
 平成9年3月 埼玉大学教養学部教養学科卒業
 平成11年4月 医療法人社団誠馨会加曾利病院(現・千葉中央
 メディカルセンター)看護師長
 平成13年4月 社団法人日本看護協会看護研修学校
 糖尿病看護学科専任教員
 平成18年3月 千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了・
 学位取得
 平成20年4月 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻准教授

関西医科大学看護学部について

平成30年4月開設予定(現在文部科学省への申請準備中)。学舎は新しく附属病院隣接地に建設することが決定しており、工事は平成28年12月着工、平成30年2月竣工の計画で進行しています。学部の入学定員は100名で、同時に大学院も設置予定です。

本学看護学部の教育においては、医学部や病院看護部と緊密な連携のもと、附属医療機関などの医療リソースを最大限活用し、時代の要請に応えられる看護の実践者、そしてすぐれた看護学教育・研究のリーダー育成を目指します。

退任の挨拶

麻酔科学講座 前教授 新宮 興



平成5年に麻酔科学講座主任教授として就任して23年間、本学にお世話になりました。

主任教授として麻酔科学講座の運営が第1の任務でした。麻酔科は病院の中核部門である手術部の運営を担う診療部ですが、全国的に麻酔科医不足が叫ばれる時期でした。病院の財政は手術件数、麻酔科の充実にかかっています。安全を確保しながら機能性・生産性をどれだけ向上できるかは麻酔科医確保とシステム化にかかっています。毎日の診療の中での成長、働きがい、その時代の先端医療への関与が若手医師にとっての魅力です。集中治療部設置は枚方病院(現・関西医科大学附属病院)の開院を待たざるをえませんでした。他大学に先駆けて、術前クリニックの設置、術後硬膜外鎮痛の実施、無痛分娩、日帰り麻酔、薬剤師の手術部専従を実施しました。研究面では当初は電気生理学的研究を進めましたが、手法が時代遅れとなり、大学・病院の役職につく中で十分な基礎研究を指導することができなくなりましたが、基礎講座の応援や研究指導のできるスタッフを迎えて

基礎研究を継続してきました。また、麻酔の国際機関誌編集委員、日本麻酔科学会英文機関誌編集長を計16年間担当し、基礎・臨床を問わず麻酔科学の先端情報を伝えることができました。スタッフの協力により麻酔科管理手術症例は就任当時の2,863件から昨年枚方病院では5,528件にまで増加しました。

大学では看護専門学校長、附属病院長、男山病院長、卒後臨床研修センター長等を経験し、法人理事・評議員を担当してきました。附属病院長当時は、枚方病院開院に向けての活動が課題でした。そのため、病院運営の効率化、システム化に尽力しました。また、DPCの導入、卒後臨床研修制度の変革にも対応を迫られました。男山病院長としては平滑な病院移譲と新香里病院開院準備(特に職員の確保)が大きな課題でした。

就任当時の老朽化した各附属病院・学舎の時代から病院再編成、枚方地区への移転、看護学部設置構想と発展してきた本学の現在までを間近に見ることができ、理事長を始めとする本学の英断・指導力・実行力に感心しています。長年に亘る多くの人々の支援に感謝するとともに本学のさらなる発展を祈っています。

施設設備整備拡充資金の募集

関西医科大学では平成28年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

1.募集対象	本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
2.募集金額	1口 100万円 1口未満でも申し受けます。
3.お問い合わせ先	関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL:072-804-2146(直通) FAX:072-804-2344

平成28年1月1日から平成28年3月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のウェブサイトでの公開は控えさせていただきます。

平成28年度入職式

4月1日(金)午前9時から枚方学舎加多乃講堂において「平成28年度入職式」が行われました。本年は後期臨床研修医50名、看護師・助産師197名、医療技術職46名、事務職15名の計308名(教育職病院助教以上除く)が入職しました。



式では入職者一人ひとりの名が読み上げられました

山下敏夫理事長からは「私立医科大学として教育・研究を基盤に、良質・安全・高度な医療を提供するという使命を果たす一方で、今後ますますの発展のために『経営』についても意識しながら職務にあたってほしい」と訓示がありました。

また、同日10時から附属病院13階共同カンファレンスルームにおいて「平成28年度初期臨床研修医入職式」が行われました。附属病院プログラム40名、同小児科重点・産婦人科重点プログラム各2名、附属滝井病院(総合医療センター)プログラム8名、計52名の研修医に辞令と白衣が授けられ、金子一成センター長から「社会人として『報告・連絡・相談』と時間厳守を心がけ2年間の研修に励んで欲しい」との言葉が贈られました。

平成27年度枚方市議会議員研修会が開催されました

2月22日(月)午後2時から枚方学舎加多乃講堂において「平成27年度枚方市議会議員研修会」が開催されました。これは山下敏夫理事長が枚方市役所を訪問した際に、枚方学舎や附属病院の見学会開催を案内し実現したもので、大森由紀子議長をはじめとする市議会議員と市役所役職員約50名が参加しました。

研修会では冒頭大森議長からの開会挨拶、山下理事長からの歓迎の挨拶に続き、附属病院高度救命救急センター・救急安行センター長(救急医学講座教授)による『救急医療体制の過去・現在・未来と災害対応について』と題しての講演が行われました。

野村生代副議長の閉会挨拶の後、参加者は三つのグループに分かれて総合研究施設やシミュレーションセン

ターなど5箇所、病院内は健康科学センターや12階の特別病棟など4箇所を見学し、散会となりました。



シミュレーションセンターを見学する参加者

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	1月23日	第8回地域医療連携フォーラム
	2月22日	平成27年度枚方市議会議員研修会
	4月1日	入職式
大学	1月16日	第2回関西血管外科基本手技ビデオセミナー
	1月30日	一般入学試験(前期)第1次試験
	2月6日	大学院後期入学試験
	2月14日	一般入学試験(前期)第2次試験
	2月17日	教員評価優秀者表彰
	2月18日	一般入学試験(前期)・センター利用入学試験合格発表
	2月20日	4学年OSCE
	2月23日	臨床研究ワークショップ(第1回)
	2月24日	業務改善コンテスト
	3月2日	医学部卒業式
	3月4日	第4回北河内がんカンファレンス
	3月5日	一般入学試験(後期)第1次試験
	3月7日	臨床研究ワークショップ(第2回)
	3月15日	一般入学試験(後期)第2次試験
	3月18日	一般入学試験(後期)合格発表
	3月18日	第132回学内学術集談会
	3月22日	平成27年度留学研究賞授与式
3月22日	大学院学位記授与式・医学会賞受賞式	
4月5日	医学部入学式	
病院	2月27日	看護研究発表会(3病院合同)
附属病院 (附属枚方病院)	1月15日	ベッパ―任命式
	1月16日	市民公開講座
	2月25日	教育講演会
	2月26日	循環器救急フォーラム
	3月1日	看護部入職1年生修了式
	3月14日	業務改善コンテスト
総合医療センター (附属滝井病院)	4月1日	名称変更
	1月15日	自殺未遂者支援センター開設式典
	1月22日	消防訓練
	3月5日	第4回ミニ市民公開講座
	3月11日	業務改善コンペティション
	3月12日	第7回よくわかる肝臓病セミナー
3月24日	第4回健康まちライブラリー	
香里病院	4月1日	訪問看護ステーション開設
附属看護専門学校	1月8日	一般入学試験(前期)
	2月23日	一般入学試験(後期)
	2月29日	卒業講演会
	3月3日	卒業式
卒後臨床研修センター	4月2日	入学式
	1月19日	看護管理者研修
	1月30日	看護副師長研修
	2月13日	看護シスター研修
	3月18日	附属滝井病院研修管理委員会(修了判定)
	3月18日	附属枚方病院研修管理委員会(修了判定)
3月29日	臨床研修修了式・懇親会	



第8回地域医療連携フォーラム



第2回関西血管外科基本手技ビデオセミナー



臨床研究ワークショップ



大学院学位記授与式



第7回よくわかる肝臓病セミナー

平成27年度医学部卒業式



学位記を読み上げる友田学長

3月2日(水)午後1時から枚方学舎加多乃講堂において、「第62回医学部卒業式」が行われました。112名の卒業生が、保護者や来賓、教職員のあたたかい拍手に迎えられて入場。学歌「のぞみ」斉唱の後、卒業生に学位記が授与されました。卒業生たちは学位記を手に、真剣な面持ちで友田幸一学長の告辞を傾聴。卒業生総代の答辞では、社会人として、また医師として社会に出る覚悟と決意、保護者や教職員、同窓生への感謝の言葉が語られました。

学長告辞

学長 友田 幸一

桃の節句の季節、本日ここに第62回医学部卒業式を挙行できますこと、この上ない喜びであります。

第84回生の卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表しまして心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席頂きました大阪医科大学大槻勝紀学長をはじめご来賓の皆様に心から御礼申し上げます。

本日、男子66名、女子46名、合計112名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。

さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支

援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

私は、昨年4月に山下敏夫前学長(現・理事長)の後任として学長を拝命し、皆様と共にこの一年を歩んでまいりました。

この一年は、皆様にとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思えます。後半は厳しい卒業試験、総合試験など試験地獄に耐え、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでの努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思えます。

皆様は「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたい」

という気持ちでこの医学の道を選んだことと思います。そして6年間の教育を通して、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。この初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情が共感できる、すなわち「empathy」を持った良医として常にベストを尽くして欲しいと思います。

そして社会人としての基礎力、すなわち、一に「考え抜く力」、二に「草莽掘起」（そうもうくつき；前に踏み出す力）、三にチームで働く力、の三つを身に付け実行してください。

現在の日本の医学・医療界には多くの問題が山積しています。例えば少子高齢化に伴う2025年問題や医師不足、地域格差、診療科格差などですが、その中でも後者の医師不足は、医師偏在を招いた初期臨床研修制度に問題があります。2年間の研修期間でプライマリーケアを学ぶことには、大学病院であっても、また市中の病院であってもその内容は同じです。しかし研修を終えた後の進路が大切で、皆様の医師としての将来を決定することになります。

平成29年度から新専門医制度がスタートする予定ですが、その管理は国の第三者機関である日本専門医機構が行います。今、各科でプログラムが作成されていますが、これまでの認定基準が大きく変わり、症例数や内容、



診療実績、論文発表などが規定化されています。そうなりますと専門研修期間の中で、大学病院などの症例数の多い基幹病院で研修せざるを得なくなってきました。

皆さんが臨床実習で見てきた通り、本学附属病院は色々な疾患を持った患者さんを診られるだけでなく、最新の医療を経験できる最適な場所です。また研修中、余裕があれば臨床研究をし、大学院に入ることも1つの道です。本学では昨年「臨床研究支援センター」を開設し、忙しい臨床系の先生のために研究のテーマから具体的な進め方などを丁寧に説明、支援しています。

2年の初期研修修了後は、皆さんが育ったこの本学で高度な専門臨床教育を受け、まず専門医になってください。そしてその後は大学を基点に関連病院に出入りをし、総合的なキャリア形成をしてください。学位を取ることや留学することも極めて意義のあることです。

ここで本学附属3病院の将来展望を紹介しますと、枚方病院(附属病院)はここ最近で大阪1位、全国でも5位にランキングされた病院で、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器の導入や、いくつかの診療部門で全国から一流の腕を持つ診療教授を公募し、この3年間で15名という多数の方を選出、任用してきました。これからは、がんセンター、小児医療センター、腎センターに加えて、遺伝子診断センターを立ち上げ、未知の疾患の診断から治療まで、また今日、3人に1人といわれるアレルギー疾患に対応できるアレルギー



ギーセンターの構想もあり、これから着実に実行したいと考えています。

附属滝井病院は、この5月のゴールデンウィーク明けに、「関西医科大学総合医療センター」に名称を改め新しく開院します。急性期に対応した診療の他、心臓血管病センター、透析センター、PETセンター、プレストセンターの新設や高名な特命教授、4名の診療教授の任用など診療機能の大幅な強化を行っていきます。

香里病院も地域中核病院として活躍中ですが、新たに訪問看護ステーションを設置し、より地域に根差した診療を展開する予定です。また、待望の4年制の看護学部・大学院新設が決定し、2年後の平成30年に枚方病院の南側の敷地に開部します。

大学院制度も本年4月から一新し、そのカリキュラムの内容とコースの充実をはかり、病院で働き一定の収入を得ながら医学研究を行い、専門医と学位の両方の資格を取得できる大学院「臨床系社会人コース」などに力を入れています。その他に、意欲的な若手や中堅医師を世界のトップレベルの施設に、大学が費用を持って臨床留学できる「スーパードクター制度」など本学特有の魅力的な制度が多々あります。ぜひこれらを活用して、科学に根差した診療、臨床を実行して欲しいと思います。その他女性医師のための「短時間労働正職員制度」があり、さらに本年度に保育所の拡張を予定しています。

本学は今年で創立88年目に当たります。創立90周年を迎える平成30年までには本学の主要施設は全て新しく



なり、また枚方病院建設時に生じた巨額の借入金も実質的に完済する予定です。また本学は毎年、黒字経営が続く全国でも数少ない経営状態の良い大学で、今後は資金を全て教育、研究、診療の内容の充実に充てていく方針です。

私は学長に就任した当初から、本学の国際化、グローバル化を目指し、世界ランキングに入る大学にしたいと考えてきました。現時点で世界で1300番目にランクインしましたが、今後1000番以内に入ることを目標に、より質の高い医学・医療の提供、研究力の向上、グローバルリーダーの人材育成、国際認証の受審、海外医療支援活動の充実、国際交流会館の設置などを推進していきたいと考えています。またそこから生まれた成果を“関西医大ブランド”として医療界、産業界、一般社会に、さらに世界に発信していきたいと考えています。それを実現するためにも、皆様の若い力とエネルギーが必要です。母校の更なる発展を願い、皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

最後になりますが、皆様がこの関西医科大学の卒業生として誇りを持ち、健康で意義のある人生を送られることを心から祈念し、私の祝辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。



平成28年度医学部入学式



平成28年度新入生117名と入学式出席者

4月5日(火)午後1時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成28年度医学部入学式」が行われました。本年度は117名の新入生が、医学の道の第一歩を踏み出しました。

告辞に立った友田幸一学長からは「これまでの勉強法を見直し、今後は自ら実践し問題を解決する能力を身につけてほしい。初心を忘れず、病める人に『empathy (共感)』をもって接することのできる立派な“医人”へと成長することを期待する」と、歓迎と祝福の言葉が贈られました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

桜花爛漫の季節を迎え、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日117名の皆さんを迎えて、平成28年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学大槻勝紀学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。

3,481名の受験生の中から競争率約30倍という難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様にも、まずは心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは本日の入学式を迎えて、喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いて

おられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学かについてまずお話しします。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして26年後の昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立88周年を迎え、卒業生総数は8,026名からなる歴史と伝統のある大学です。

その長い歴史の中で、近年、大きく変革を遂げました。その一つは、今、皆さんがおられるこの学舎です。3年前にオープンした100年先までもつ立派な建物で、延床面積4万2千平米という甲子園球場が二つ入る大きさで

す。正門をくぐると「グリーン&エコ」のモットーを象徴する広い中庭が目に入ったことと思います。これまで3つに分かれていた学舎をここ一つに統合し、「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の研究施設」、「最先端医療を担う附属病院(本院)」が隣あわせに立地し、スカイウェイで直結するまさに超近代的な学園に生まれ変わりました。

新学舎の4階までは、講義室、実習室、講堂、図書館など、主に学生の教育施設が、5階以上は臨床と基礎の全講座の研究室及び居室が、そして中層棟は、近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究部門が配置されています。近い将来は最先端の医学研究所の設立が計画されています。恐らくこれらの諸施設は現在の日本の医科大学の中でも有数の教育研究施設ではないかと思えます。

一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であります。本学には枚方病院、滝井病院、香里病院の3つの附属病院があります。この学舎に隣接する枚方病院は本院であり、今月から「関西医科大学附属病院」と改名しましたが、10年前に開院し、最新・最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。3年連続で西日本あるいは大阪1位、全国でも5位にランキングされた病院で、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器を導入し、いくつかの診療部門では一流の腕を持つ診療教授を、この3年間で15名採用しました。これからは、がんセンター、小児医療センター、腎センターに加えて、臨床遺伝子センターを新しく立ち上げ、未知の疾患の診断から治療まで、また今日、3人に1人といわれるアレルギー疾患に対応できるアレルギーセンターの構想もあり、これから着実に実行したいと考えています。

附属滝井病院は、病床数477床の地域中核型の病院で、この5月のゴールデンウィーク明けに、「関西医科大学総合医療センター」に名称を改め新しく開院します。急性期に対応した診療の他、心臓血管病センター、透析センター、PETセンター、プレストセンターの新設や高名な特命教授、4名の診療教授の採用など診療機能の大幅な強化を行っています。

香里病院は病床数199床で5年前に開院した比較的新しい地域密着型の病院で、枚方病院(附属病院)のサテラ

イト機能を持っています。新たに訪問看護ステーションを設置し、より地域に根差した診療を展開する予定です。これらの3つの病院群に加え、人間ドックなど予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせ持つ本学の総合的な診療体制は、京阪沿線にそって展開されていて、「健康沿線」というキャッチフレーズで西日本一、かつ日本でも有数のものと考えています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、大きく変化を遂げ、その後も進化し続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。医師になる2000分の1歩がこれから始まろうとしています。この一年が皆さんの学業生活から将来医師になってからの人生を大きく左右することになります。その重要な点をいくつかお話したいと思います。

皆さんは「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の世界を選んだことと思います。この初心の気持ちを決して忘れないでほしいということです。本学の建学の精神は「慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」ことで平成13年(2001年)に制定されました。これは昭和7年(1932)年に本学2期生の当時19歳だった宮前澄子さんによって作詞された学歌「のぞみ」の3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして、雄々しく生きむ医の道に」に由来しています。この精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野もつ人間性豊かな良医を育成することを教育の理念としています。この精神をひと時も忘れることなくこれからの6年間、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけ、そして病める人の気持ち・感情が共感できる、すなわち「empathy」を持った良医をめざして勉学に励んでください。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変える必要

があります。その理由はこれから学ぶ医学知識の量は膨大で、暗記力中心の勉強法ではとてもやっていけないからです。現在、どれくらいの数の病気が有るかという、約1万と言われていています。しかし近年遺伝子診断など新しい診断技術の進歩によって、これまでわからなかった新たな病気が次々と登場してきています。皆さんは6年間で、人体の基礎から臨床の病気まで、そのすべてについて学ぶわけですが、当然覚えきれぬ量ではないですね。ではどうすればいいでしょうか。個々の知識の意味を理解し、整理し、考え、そして能動的に自在に使いこなす知恵を学ぶ必要があります。それは教科書を読んだだけでは身につけることができず、授業に出て先生の話聞くことで、キーワード、キーポイントを発見することができるのです。しかし、私ども教員も限られた時間の中でそのすべてを教えることはできません。皆さんは「サンプルとレシピの関係」という話を聞いたことがありますか。例えば、ディナーで食べたパンを家でも食べたいと望むお客さんに、余分に焼いたパンを持って帰ってもらうか、パンを作るためのレシピを渡すか。サンプルを渡すだけでは、それを食べてしまえばおしまいですが、レシピを渡すと、材料を揃えれば何度でも食べることができます。つまり大学の教育はそのすべてを教えるのではなく、レシピに相当するキーワード、キーポイントを教え、後は自分で学習し、解決する能力を身に付けるのです。それによって未知の場面に遭遇しても自分で考え、判断できるようになるのです。皆さんは昨年導入されているICTを応用した新しい学習システム(KMULAS)を用いて、教員と学生の双方向のアクティブラーニングを始めることになります。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性を引き出す場でもあります。これまで受験勉強のためにできなかった、堪えてきたことをこの機会に大いに発揮し、持っている才能や個性に磨きをかけてください。本学にはたくさんのクラブ活動があります。その活動を通じて、多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。今年から全国でもユニークな「バラ同好会」を新しく立ち上げます。本学ではこの加多乃講堂の壁面にそってバラが植樹されています。単にバラを育てるだけでなく、そ



の命を大切に育てることに意味があり、建学の精神に通じるものです。有志を募集します。

また新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。主体性を引き出すカリキュラムを少し紹介しますと、将来山中伸弥先生のような科学者を目指す研究医養成コース、3年生では自分で計画を立案し実行する配属実習、6年生では海外の医学・医療を学んでくる海外臨床実習などです。皆さんの一人ひとりがこの6年を関西医科大学で過ごしたという何か証しを残して欲しいと願っています。そうすることによって母校愛が芽生えることになるでしょう。ただ勉学と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把握し、学生生活にメリハリをつけることも忘れないでください。

最後は、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう一つは身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

さて、本日の入学式には、50年前に本学に入学された皆さんの先輩をご招待しています。まさに医療界で重鎮としてご活躍の方々が、ご多忙の中皆さんの入学にエールを送るために出席してくださいました。本学は常に同窓生の母校愛によって見守られていることを銘記してください。

最後に、新入生の皆さんには、これから“関西医大人”としての誇りを持って、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

国立がん研究センターでの配属実習について

本学では、医学部3学年の締めくりに学内外の医療機関等において「配属実習」を行います。これは、1・2・3学年を経て習得してきた教養教育、基礎医学、社会医学などの知識が、研究や医療の現場でどのように応用・実践されているのかを体験するためのカリキュラムです。

今回は、「国立がん研究センター」で20日間の研修を行った横田亮介さん(当時3学年)のレポートを紹介します。

配属実習を終えて

期 間：平成28年1月18日～2月12日

実習先：国立がん研究センター中央病院

横田 亮介

この度、三学年の配属実習の機会を利用し、国立がん研究センター中央病院病理部で一月間実習させていただきました。まず、この施設を実習先とした理由は、将来的に病理医を志していること、昨年度より外部施設での実習が可能となったことに加え、国立施設である国立がん研究センターでは、多くの症例を学習することが出来、さらには全国的に病理医不足が問題となっている中、病理専門医が充実しており実務を見学できると思ったためです。

実習内容は、術中迅速診断、臓器標本作成・観察が中心で、頻度は多くなかったものの、病理解剖についても勉強する機会を得ました。

今回の実習で驚いたことは、国立がん研究センター中央病院には病理専門医が10数名おり、臓器ごと(肝胆膵、皮膚頭頸部、骨軟部、乳腺、消化器、呼吸器等)の担当が決まっているほど充実していたことです。一般病院では通常、一人で全臓器の診断を行っており、その負担の大きさが問題となっているといいます。しかし、腫瘍を専門としている国立がん研究センターでは、術中迅速の

病理診断で患者のその後のQOLが左右されるという理由から、臓器ごとに専門を設け複数名で診断を行う制度がありました。このような制度は国立がん研究センターのような人数がいればこそ可能となるものですが、非常に効率的で、独自の制度が確立されていました。また、プレパラートの作成においても技師にすべて任せるのではなく、外科執刀医と病理医とで相談しながら臓器切り出し部位を決めており、後日CPC(臨床病理検討会)を行う際も症例の細部まで話し合うなど、この制度下でこそ実現可能な非常に詳しいCPCが行われており、大変勉強になりました。

今回こうした実習を経て将来へのモチベーションを向上することが出来、大変充実した実習となりました。今回学んだ医学知識は概形的にしか理解できないところも多いですが、今後理解を深めさらに意味あるものに出来たらいいと思います。

平成27年度留学研究賞

3月22日(火)午後2時45分から枚方学舎4階中会議室において「平成27年度関西医科大学留学研究賞授与式」(主催：国際交流センター)が行われました。この賞は、本学の留学生、留学研究者が本学滞在中に発刊したすぐれた研究論文に対して与えられるもの。

平成27年度は、医化学講座(当時大学院4年) Nguyen Huu Tuさん(ベトナム)が受賞しました。受賞論文のタイトルは「Role of JNK in late nerve regeneration monitored by in vivo imaging of thyl-YFP transgenic mice」です。



友田学長(右)、国際交流センター高橋副センター長(左)と、受賞者のNguyenさん(中央)

本学留学生が助成金・奨学金を受給

内科学第二講座(大学院3年) Nguyen Thanh Huanさん(ベトナム)が、公益財団法人上原記念生命科学財団による2015年度来日研究助成に採択されました。本学留学生が同研究助成の支給対象となるのは今回が初めてです。

また、健康科学教室(大学院4年) Cao Thi Thu Haさん(ベトナム)と生理学第一講座(大学院3年) Andharia Naazさん(インド)が、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の2016年度奨学生に選ばれました。

平成28年度大学関係役職員

4月1日から、平成28年度の大学関係役職員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田 幸一	学生部長	福永 幹彦	総合研究施設長	赤根 敦
副学長	伊藤 誠二	学生副部長	中村 加枝	実験動物飼育共同施設長	上野 博夫
	松田 公志		中川 淳	アイソトープ実験施設長	藪田 精昭
教務部長	野村 昌作	大学院教務部長	中邨 智之	入試センター長	藤井 茂
教務副部長	赤根 敦	大学院教務副部長	高橋 寛二	医学教育センター長	木下 洋
	影島 賢巳	附属図書館長	螺良 愛郎	国際交流センター長	西山 利正
		附属生命医学研究所長	木梨 達雄	学医	塩島 一朗

平成28年度クラスアドバイザー

平成28年度のクラスアドバイザーが次の通り決定しました。

1年	北脇 知己 教授 (数学)	・ 藤井 茂 教授 (化学)
2年	西山 利正 教授 (公衆衛生学)	・ 神田 靖士 准教授 (公衆衛生学)
3年	山田 久夫 教授 (解剖学第一)	・ 田中 進 講師 (解剖学第一)
4年	浅井 昭雄 教授 (脳神経外科学)	・ 吉村 晋一 准教授 (脳神経外科学)
5年	湊 直樹 教授 (心臓血管外科学)	・ 岡田 隆之 講師 (心臓血管外科学)
6年	福永 幹彦 教授 (心療内科学)	・ 西山 順滋 助教 (心療内科学)

慈仁会定期総会を開催

4月5日(火)「平成28年度慈仁会定期総会」が開催されました。議案(1)平成27年度事業報告及び収支決算(2)平成28年度事業計画及び収支予算案(3)役員改選がいずれも承認されました。なお、本年度の慈仁会主要役員は以下の方々です。

平成28年度慈仁会主要役員

委員長	塩田 啓仁	監 事	西川 睦彦
会計委員	重山 文子		山添 康

平成28年度医学部入学試験結果

平成28年度医学部の推薦、センター試験利用、一般前期(大阪・東京・名古屋・福岡の4会場)、一般後期(枚方学舎)各入学試験の合計志願者数は3,481名でした。平成27年度は4,433名で、全国的に志願者減の大学が多い中、本学も952名(△21.5%)減少しました。昨年度から導入したインターネット出願は、平成28年度は1,160名(33.8%)で、昨年度の923名(21.1%)より利用率が向上しました。

入学者117名における内訳は、推薦入試10名、センター試験利用入試2名、一般前期入試94名、一般後期入試11名です。

第110回医師国家試験結果・卒業生の進路

3月18日(金)第110回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者113名のうち101名が合格し、合格率は89.4%でした。また、新卒および既卒を合わせた本学の受験者123名のうち109名が合格し、合格率は88.6%でした。

なお、平成27年度医学部卒業生113名のうち、本学初期研修医は33名となりました。その他主な卒業生の進路内訳は、国立大学病院11名、公立大学病院10名、私立大学病院5名、市中病院他38名です。

大学院入学試験結果

前期入学試験を昨年9月5日(土)、後期入学試験を本年2月6日(土)に実施しました。受験者は前期入学試験が20名、後期入学試験が19名で、全員が合格しました。1名辞退があり平成28年度入学者数は38名(内、臨床系社会人学生3名、社会人特別学生5名、外国人特別学生3名を含む)、本年4月時点での大学院生総数は134名となりました。

大学院機構改革

大学院教務部長 中邨 智之

平成28年度から、本学大学院は組織再編とカリキュラムの改定を実施しましたので、その概要を説明します。

大学院組織は、従来から医科学専攻、先端医療学専攻の2つの専攻を設置していましたが、これを一本化して計45の研究分野を医科学専攻の下に並列に組織しました。複雑化していた組織をシンプルにすることで、各講座の研究領域が明確になり、学内外へ端的なアピールが容易になったことに加え、大学院受験者が選択に迷わず研究分野を志願することが可能になると考えています。

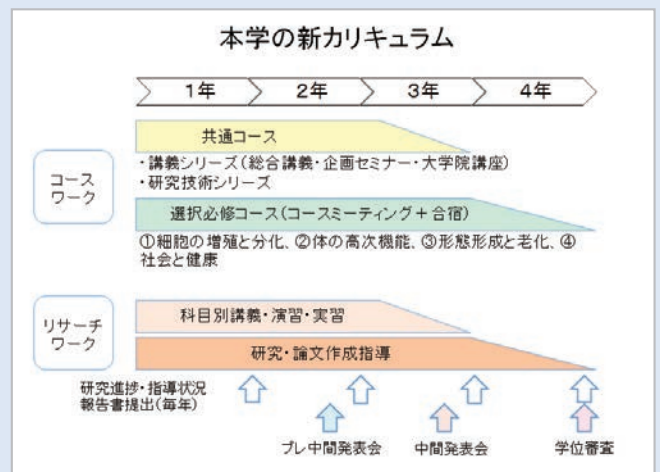
カリキュラムの改定は、博士課程の修業年限である4年(長期履修者は5年)内での学位取得率向上を目指して、研究指導体制を強化することを念頭に検討を重ねました。研究指導はこれまで大学院生が所属する研究室任せとなっていたが、これを本学大学院として研究技術の指導、研究の進捗管理を行うことにしました。具体的には、低学年次に受講する共通コースにおいて、これまでの大学院総合講義、大学院企画セミナー、大学院講座をベースにした講義シリーズに加えて、新たに基本的な研究技術を学ぶ研究技術シリーズを開講します。

また、研究室の垣根を越えて教員や大学院生が交流できる場を設け、平素の研究に対する相談等を気軽に行えるような体制づくりを目指して、選択必修コースを新たに開講します。「細胞の増殖と分化」「体の高次機能」「形態形成と老化」「社会と健康」の4つのグループを設け、教

員、大学院生にはいずれかのグループへの参加を義務づけます。各グループでは年6回以上のコースミーティング、年1回のリトリート(合宿)の開催を必須としています。

研究の進捗管理としては、「研究進捗・指導状況報告書」を毎年提出することとし、学生の研究活動の到達度を測る指標としてルーブリックによる自己評価の記載を含めました。今後は、この報告書により、共通の基準で大学院生の研究の進捗を測ることが可能になり、遅滞気味の学生を把握し指導に繋げることができるようになると期待しています。

改革はまだ始まったばかりですが、魅力ある大学院となるよう関係者一丸となって推進していきます。



平成28年度 教務関係日程表

1学年	
4/5(火)	入学式
4/6(水)~8(金)	新入生オリエンテーション
4/11(月)	1学期開講
4/12(火)	新入生健康診断
4/14(木)・15(金)	合宿研修
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
6/30(木)	創立記念日
7/4(月)~15(金)	試験期間
7/20(水)	1学期終講
7/21(木)~8/27(土)	夏季休業(期間内に早期体験実習)
8/29(月)	2学期開講
10/28(金)~10/30(日)	大学祭
12/5(月)~12/17(土)	試験期間
12/17(土)	2学期終講
12/19(月)~1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/20(月)~3/4(土)	試験期間
3/1(水)	卒業式
3/6(月)~3/10(金)	早期医療実習
3/10(金)	3学期終講

2学年	
4/1(金)	新2学年ガイダンス
4/11(月)	1学期開講
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
5/15(日)	解剖体追悼法要
5/20(金)	学生定期健康診断
6/30(木)	創立記念日
7/19(火)~26(火)	試験期間
7/26(火)	1学期終講
7/27(水)~8/27(土)	夏季休業
8/29(月)	2学期開講
10/28(金)~10/30(日)	大学祭
12/12(月)~16(金)	試験期間
12/16(金)	2学期終講
12/17(土)~1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/8(水)~2/28(火)	試験期間
2/28(火)	3学期終講
3/1(水)	卒業式

3学年	
3/31(木)	新3学年ガイダンス
4/6(水)	1学期開講
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
5/15(日)	解剖体追悼法要
5/19(木)	学生定期健康診断
6/30(木)	創立記念日
7/13(水)~22(金)	試験期間
7/22(金)	1学期終講
7/23(土)~8/20(土)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/28(金)~10/30(日)	大学祭
12/9(金)~16(金)	試験期間
12/16(金)	2学期終講
12/17(土)~1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
1/23(月)~2/17(金)	配属実習
3/1(水)	卒業式
3/3(金)	3学期終講

4学年	
3/29(火)	新4学年ガイダンス
4/6(水)	1学期開講
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
5/18(水)	学生定期健康診断
6/30(木)	創立記念日
7/21(木)	1学期終講
7/22(金)~8/20(土)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/28(金)~10/30(日)	大学祭
12/16(金)~21(水)	試験期間
12/21(水)	2学期終講
12/22(木)~1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
1/4(水)~1/6(金)	試験期間
1/11(水)	共用試験CBT
2/18(土)	共用試験OSCE
2/20(月)~2/24(金)	プレクリニカル・クラークシップ
3/1(水)	卒業式
3/3(金)	3学期終講

5学年	
4/2(土)	新5学年Student Doctor認証式・ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)~3/10(金)	臨床実習
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
5/19(木)	学生定期健康診断
6/30(木)	創立記念日(臨床実習開講)
7/22(金)	1学期終講
7/25(月)~8/12(金)	夏季休業
8/15(月)	2学期開講
8/19(金)	CC中間検討会
12/22(木)	2学期終講
12/26(月)~1/5(木)	冬季休業
1/6(金)	3学期開講
1/6(金)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/1(水)	卒業式
3/10(金)	3学期終講

6学年	
3/28(月)	新6学年ガイダンス
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)~7/2(土)	臨床実習
5/2(月)~5/7(土)	休講(5月連休)
5/18(水)	学生定期健康診断
6/30(木)	創立記念日(臨床実習開講)
7/16(土)	Post-CC OSCE
7/16(土)	1学期終講
7/19(火)~8/23(火)	夏季休業
8/24(水)	2学期開講
8/24(水)	卒業試験①
8/29(月)~10/28(金)	まとめの講義と卒業試験②
11/14(月)~11/18(金)	卒業試験③
11/18(金)	2学期終講
11/21(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/1(水)	卒業式

注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

病 院

附属病院・総合医療センターにPepper導入



山下理事長・友田学長臨席のもと、任命式が行われ、澤田病院長から辞令が手渡されました

1月15日(金)、附属病院にヒト型ロボット・Pepper(ペッパー)が導入されました。今回の導入は山下敏夫理事長が発案し実現したものです。「関医くん」と名付けられたPepperには、同日行われた任命式で“患者接遇係”の辞令が交付されました。以後、2階総合案内付近で患者さんの対応業務に従事しています。

なお、総合医療センターでも、新本館のオープンに合わせてPepperを導入する予定です。

附属病院

附属病院「循環器救急フォーラム」開催

2月26日(金)午後6時から枚方学舎2階第4講義室において、附属病院ハートセンター主催の「循環器救急フォーラム」が開催され、枚方寝屋川消防組合をはじめ近隣消防本部に所属する約120名の救急隊員らが受講しました。

開会にあたり、湊直樹センター長(心臓血管外科学講座教授)が挨拶。心疾患に関する知識習得の重要性を強く訴えました。

講演ではまず、心臓血管外科学講座渡辺健一講師が急性大動脈解離の特徴や治療方針について解説。続いて湊教授が、附属病院では心臓血管外科・循環器内科が一体となって治療に取り組んでおり、患者の病状に合わせた最適な治療を行っていることや、冠動脈形成術などで全国でも有数の成績を上げていることを紹介しました。

また、フォーラム終了後には医師と救急隊との意見交換会も行われました。



附属病院での心疾患治療について紹介する湊教授(中央奥)

総合医療センター

「大阪府自殺未遂者支援センター」開設

1月15日(金)附属滝井病院救命救急センター内に、「大阪府自殺未遂者支援センター(IRIS・アイリス)」が設置さ



看板を掲げる岩坂病院長(左)と、伊藤医療監(右)

れました。これは大阪府が全国で初めて、過去に自殺未遂をした人が自殺行為を繰り返さないよう継続的に支援する事業をスタートさせるにあたり、開設されたものであり、同センターには精神保健福祉士が常駐し、府内4か所の救命救急センターに搬送された自殺未遂者を支援します。

また、この日は午前10時から南館1階1S病棟前で開設式典が挙行政され、大阪府伊藤裕康医療監と岩坂壽二病院長の手でIRISの看板が取り付けられました。式典終了後は本館8階会議室に場所を移し、キックオフ会議を実施。精神神経科木下利彦教授の挨拶に続き、救命救急センター中森靖教授、池田俊一郎助教がそれぞれ、本事業の内容と事業フローを説明しました。

なお、当事業は総合医療センターに引き継がれます。

総合医療センター 患者さん送迎バスに新ルート導入

1月から、総合医療センターと阪急「上新庄」駅を結ぶ「東淀川上新庄直行便」の運行を開始しました。現在総合医療センターでは、①大日町方面行き、②鶴見区方面行き、③旭区・太子橋方面行きと合わせて、計4ルートで送迎バスを運行しています。



香里病院 関医訪問看護ステーション・香里の開設について

関医訪問看護ステーション・香里 管理者 聲高 英代

4月1日、香里病院に「関医訪問看護ステーション・香里」が開設されました。本ステーションは、更なる高齢化社会の到来による医療体制の変化に向け、大学と地域医療・福祉をつなぐ役割を担います。

大学病院が開設するステーションとして重要な特色の1つが附属3病院との連携体制です。香里病院だけでなく、附属病院・滝井病院の患者の在宅医療移行を促進する連携体制の構築を検討しています。また、看護においては、病院と在宅で継続した質の高い看護を提供するための体制作りを目指しています。

2つ目の特色は教育・研究に関する役割です。大学と地域医療・福祉の連携に関する教育・研究の場となります。看護においては、平成30年に設置予定の看護学部と協同し、地域住民への生涯を通じた看護、地域に根差した看護の教育に取り組みたいと考えています。

その他、病院と地域の関係機関の連携を強化する支援など大学と地域をつなぐ役割を担います。

多くの大学関係者の皆様、地域の関係機関の皆様にご指導、ご支援をいただき準備を進め、開設に至りました。心より御礼申し上げます。少しでも早く地域に役立てるステーションになるよう邁進してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

平成27年度附属看護専門学校卒業式



卒業証書を手渡す岡崎学校長

3月3日(木)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、「平成27年度附属看護専門学校卒業式」が行われました。この日は山下敏夫理事長、友田幸一学長、附属枚方病院(附属病院)安田照美看護部長らが臨席。白衣に身を包んだ76名の卒業生が、岡崎和一学校長から卒業証書(医療専門課程専門士の称号)を授けられました。学校長式辞、山下理事長祝辞、安田看護部長の来賓祝辞、在校生の送辞ではそれぞれ、卒業生へ向けて期待を込めたメッセージが贈られました。

学校長式辞

学校長 岡崎 和一

本日ここに無事卒業の日を迎えられた平成27年度卒業生76名(女子69名、男子7名)の皆さんおめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで支えてこられたご家族・保護者の皆様に心よりお慶び申し上げます。また卒業生を、学業の側面から導いてくださった実習施設の関係者の皆様、またご多用の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さんはこれから、看護師としてスタートされますが、その前に、学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりの心を育ててこられたことと思います。本日の白衣姿は、これから歩む看護の職業人としての覚悟と誇りの象徴であることをあらためて自覚して下さい。学生時代には、ある意味で勉学など自分に対する責任のみを全うすればよかったのですが、これからは、医療人として様々な病気に悩む患者さんやその御家族に対する責任を持たなければいけない事を自覚して下さい。

とはいえ、実際に看護師生活がスタートすると、学生時代と異なり、そこには多くの困難が待ち構えているかと思えます。現代医学をもってしても、どうにもならな

い患者さんを看護する際のストレス、あるいは医学や看護学だけでは克服できない社会的環境などに対するジレンマを感じたり、時に厳しい現実が待っているかと思えます。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人のかかわりの中で行われますので、他人を理解し、時には共感・協調する姿勢が極めて大切で、その繰り返しにより人間関係スキルが向上されますし、また人としてさらに成長させてもくれます。その過程で、人に奉仕して感謝されることは大きな喜びとなるだけではなく、看護師としての職務を全うする心の糧ともなります。是非、初心を忘れず、力強い、かつ心優しい看護師に成長していただくことを願っております。

今日、皆さんはそれぞれの描く理想の看護師像を胸に羽ばたくわけですが、同時に社会人としても旅立つわけです。私からはなむけとして「よき医療人の前によき社会人たれ」という言葉を贈りたいと思います。良き看護師になるために医療・看護に対する知識・技能・コミュニケーション能力を育むことは勿論大切ですが、その前に「きちんと挨拶する」「時間を守る」「目上の人を敬う」などけじめや節度をわきまえた大人としての振る舞いを心がけて下さるようお願いいたします。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、卒業生の皆さんの輝かしい未来と今後の成長を期待して、私の式辞と致します。

平成28年度附属看護専門学校入学式



新入生代表の挨拶では、看護師を志す決意が力強く語られた

4月2日(土)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において「平成28年度附属看護専門学校入学式」が行われました。岡崎和一学校長から82名の新入生へ向けて「緑豊かな牧野校舎で、常に謙虚な姿勢で存分に学んでほしい」と式辞が述べられた他、山下敏夫理事長祝辞、来賓として出席した友田幸一学長、附属病院安田照美看護部長からそれぞれ、新入生の前途を祝した言葉が贈られました。

学校長式辞

学校長 岡崎 和一

37期生82名の皆さん、本日は入学おめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親・保護者の方をはじめ、ご家族、先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せまして、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新入生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、85年目を迎える歴史ある看護学校です。定員が80名になった過去13年間の看護師国家試験の累積合格率は99%と極めて高く、全国的にも常にトップクラスの成績であります。この3月までに4397名という実に多くの正看護師を世に送り出しております。新入生の皆さんは、今日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として誇りと責任を持って、是非とも充実した学生生活を過ごしていただきたいと願っています。

さて、毎年新入生にお話ししているのですが、本学への入学に際し、今後の学園生活を過ごす心得として、私からは四つの「K」のつく言葉を皆さんにお贈りしたいと思います。一つ目は「勤勉」の「K」、二つ目は「謙虚」、三つ目は「国家試験」、そして四つ目が「希望」です。これからの三年間忘れることの無いようにして下さい。

看護という文字を紐解いてみますと、「看」は手と目

に従う、つまり目の上に手をかざして望み見ること、また「護」は注意深く守護する、鳥を手にとって鳥の様子を注視し、祝詞をあげ占って守ることをいう、とあります。この様に看護師には広い視野を持ちつつ目の前の傷や病を負った人々を支えていくという使命があります。

振り返ってみますと阪神大震災から20年、東日本大震災から5年経ちましたが、私たちはまだまだ大自然との闘いの真ただ中にいます。皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間でまさに戦場の女神として働きました。生物統計学者でもあった彼女は勤勉に、そして環境に対しても謙虚に、戦争のない世界の到来を願ってその生涯を捧げました。さすがに国家試験に苦労したという話は書かれてはいませんが…。今日からあなた方も一人ひとりが看護の世界の歴史を日々築き上げてゆく立場であるという大きな自負を持って下さい。

皆さんは、これから牧野の地での勉学となります。牧野は関西医大の開学の地としてゆかりの地であります。この緑豊かな校舎では春には桜が、秋には金木犀の花が咲き、季節季節に訪れる度に、歴史と伝統を感じ本当に心穏やかになります。そのような素晴らしい環境にある学舎で、これからの三年間、健康に気をつけながら日々勉学に励んで下さい。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力であなた方を支えるべく心一つにしておりますことをお伝えして、私の式辞としたいと思います。

本日は本当におめでとうござります。

平成28年度附属看護専門学校入学試験結果

附属看護専門学校の平成28年度一般入学試験が、牧野校舎において実施されました。前期試験は1月8日(金)に行われ、志願者109名(昨年122名)が受験して44名(内、男子5名含む)が合格。後期試験は2月23日(火)に行われ、志願者54名(昨年58名)が受験して16名が合格しました。

附属看護専門学校卒業講演会

2月29日(月)午後3時15分から枚方学舎加多乃講堂において卒業講演会が開催され、「いのちはぐくむ 活動の実際」をテーマに附属病院看護部川畑仁美師長(不妊症看護認定看護師)が講演を行いました。自らの経験をもとに看護の仕事の魅力を伝え、卒業を間近に控えた学生たちを激励しました。

第105回看護師国家試験結果

3月25日(金)第105回看護師国家試験の合格発表があり、本校からは81名が受験して80名が合格しました。合格率は本校が98.8%で、全国は89.4%、大阪府は89.1%でした。

平成27年度臨床研修修了式

3月29日(火)午後4時から附属病院13階講堂において「平成27年臨床研修修了式」が執り行われました。本年は、附属枚方病院所属39名、附属滝井病院所属8名に対して、澤田敏病院長と岩坂壽二病院長から修了証が授与されました。授与に先立ち修了生は、初期臨床研修開始時につづった「臨床研修使命宣誓証」を読み上げ、研修でお世話になった病院やプログラム関係者への感謝と、自らが定めた目標を達成できたかについての自己評価を述べました。



友田学長(一列目中央)、澤田病院長(同中央右)、岩坂病院長(同中央左)らと修了生一同

修了証授与に続いて澤田病院長、岩坂病院長から告辞があり、「自らの可能性を最大限広げるために、若いうちに留学や学位の取得に果敢に挑戦してほしい」、「医師としての自覚と責任を持って患者さんや社会と向き合ってください」と激励しました。また、来賓として出席した友田幸一学長と、卒後臨床研修センター金子一成センター長は、周りの人を思いやること、「医道」に背いていないか常に自身に問いかけることなど、医師の先達としてのアドバイスを授け、はなむけの言葉としました。

国家試験応援史：学生の求めに応じて二人三脚

関西医大同窓会副会長 一般財団法人加多乃会副会長 四方 伸明(46回生)

今年の卒業試験、国家試験の成績が芳しくなかったと聞く。今は若手医師として活躍している同窓生が、かつて6回生だった時、合格支援に関わった先輩として何かの示唆、そしてエールとなればと思い国家試験をテーマに勝手連的応援史を記してみたい。

平成9年秋の霜月祭に牧野の有田清三郎数学教授を訪ね、未だ国家試験で関西医大は100%合格がないとの話題から有田教授が前任地の川崎医大で100%達成したことを伺う内に「国家試験100%達成で関西医大の歴史を作ろうではないか。」有田教授の提案だった。まずは、学祭の世話で牧野にいるはずの6回生クラス総代田中章太郎君を探せ！！居た。翌週滝井で国試対策委員を集め会った。有田教授の提案は、「生活にメリハリを付けるため大学へ出てお日様の下昼勉強すること。そのためにタイムキーパー的に試験当日をゼロ日としてカウントダウンと応援メッセージを毎日FAXで国試対策委員に送るから大部屋合同勉強室やグループ用勉強室の友親会館に毎日掲示すること 他。」すると総代と委員曰く「全員が大学に出てきたら場所がない…。ヨッシャ！南館最上階の広い部屋に沈殿していた数名の学生に場所を空けてもらった。「全員が出てきたら机がない…。ヨッシャ！すぐ学長や教務部長と交渉するも予算がない。来年なら、との回答に。「自分達は今回国試です。来年では意味がない…。ヨッシャ！鮫島同窓会長にお願いし加多乃会館の受験生の随時使用を確保すると同時に、附属病院用度事務の宮内さんの協力で勉強机を病院納入割引き特別価格での購入を可能にもらい、「今回受験の6回生との約束を果たすため自費でも発注しますので搬入を認めて欲しい」と談判。それ程言うならと40人分の机椅子を入れてもらった。学生には交換条件として、「毎日先着順に机は自分で確保せよ。決して荷物を置きっぱなしにして占拠沈殿する様なことがあってはならない」と。

その後、この勝手連的応援は学生の希望で継続し、有田教授が退職されてからもお願いして教養部時代教授の警咳に接した最後の学生が国家試験を受験するまで17年間FAXを送り続けて頂いた。国試対策協議会への同窓会からの資金援助で予備校の講義ビデオを購入したり激励会をもち、このFAX応援メッセージを小冊子にして卒業生全員へのはなむけとした。今も大切にこの冊子を持って初心を思い出しているという後輩の話聞く。毎年学生には受験勉強の体験上後に続く後輩のため気付いた改善すべき点があれば大学に要望する様に促し、卒業の合否発表を正月前に行い 合格者は正月落ち着いて早く試験勉強に臨めるようになった。グループ勉強のため友親会館を朝早く開けてもらい、次の年には早朝から暖房を入れてもらえるようになった。これらは、試験勉強に頑張っている学生のためにと依頼をうけた警備員やボイラー室の方々が自主協力してくれたお蔭である。

枚方学舎の自習室はすばらしい設備環境と聞く。しかし、人が伸びるには恵まれていなくとも克服すべき適度なストレスと、グループで勉強する者、個人で勉強する者、個人であるが大部屋で勉強する者、個人でも孤立しない、ましてやグループ内で孤立させない“多様性の選択肢の自由度”が必要なのではないだろうか。入学偏差値の高い学生の成績不振の原因は筆者にはわかりません。心の片隅に棲む悪魔が何なのか、同窓会加多乃会の無条件の声援応援支援が願わくばそれを克服する心の刺激となることを祈っております。

筆者以上に関西医大を愛し、牧野を愛し、学生を愛し、「ともに歴史を作ろう」と動いて頂いた有田清三郎名誉教授に深謝いたします。応援に協力頂いた全ての方に感謝します。



教職員メディア情報

新聞・雑誌等の取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオ等に出演した教職員他を紹介します。(主に平成28年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

眼科学講座 高橋 寛二 教授	「実例でよくわかる！目の病気 緑内障・白内障・加齢黄斑変性・網膜剥離」 (2016.1.5)	過去に出演した「NHKチヨイス@病気になったとき」2015年3月14日および8月22日放送分の内容がそれぞれ「加齢黄斑変性になったとき」(第3章)、「網膜剥離になったとき」(第4章)として編集され、掲載されました。
病理学第一講座 吉田 真子 講師	日刊工業新聞 (2016.1.12)	遺伝子の発現調整に欠かせないDNAのメチル化や制御に関する研究論文が英科学誌「サイエンティフィック・リポーツ電子版」で公開され、共同研究者として紹介されました。
総合医療センター	朝日新聞 (2016.1.14夕刊)ほか	大阪府の、自殺行為を繰り返す未遂者のサポート制度がスタートすることとあわせて「大阪府自殺未遂者支援センター」が設置されることが紹介されました。
附属病院	日刊工業新聞 (2016.1.19)	患者さんの接遇係としてソフトバンクのヒト型ロボット「Pepper」を導入したことが紹介され、澤田敏病院長の「不安を抱えて来院する患者さんを癒やしてほしい」とのコメントが掲載されました。
総合医療センター	NHK (2016.1.15)ほか	大阪府が始めた自殺行為を繰り返す未遂者のサポート制度と、府の委託を受けて院内に「大阪府自殺未遂者支援センター」が設置されたこと、および救急医学講座中森靖准教授のコメントが放送されました。
救急医学講座 丸山 修平 研究員 中嶋 麻里 助教	ABC朝日放送 「キャスト」 (2016.1.18)	丸山研究員が密着取材を受け、災害訓練に臨む様子や「第一回南大阪メディカルリー選手権」で所属チームが優勝したことなどが紹介されました。また、先輩医師として中嶋助教が取材を受け、丸山研究員を指導する様子が放送されました。
眼科学講座 山田 晴彦 准教授	毎日新聞 (2016.2.2朝刊)	連載コラム「ご近所のお医者さん」において、「疾患と患者さんの気質」をテーマに寄稿した文章が掲載されました。
心療内科科学講座 福永 幹彦 教授	読売ファミリー (2016.2.3)	連載企画「教えて！ドクター」のコーナーに出演し、過敏性腸症候群の原因や症状、附属病院における診療の実際について解説しました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	読売テレビ 「ウェークアップ！ぶらす」 (2016.2.6)	VTRおよびスタジオ出演し、感染拡大が懸念されるジカ熱について渡航医学・熱帯医学の専門家としてコメントしました。また、日本でジカ熱に感染した疑いのある患者が出た場合、総合医療センター海外渡航者医療センターが受け入れ施設となることも紹介されました。
精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教	読売テレビ 「ウェークアップ！ぶらす」 (2016.2.6)	スタジオ出演し、元プロ野球選手が覚せい剤取締法違反容疑で逮捕された事件について、薬物依存症患者などを診療する医師の立場から、解説・コメントしました。
産科学・婦人科学講座 岡田 英孝 教授	読売新聞 (2016.2.7朝刊)	連載企画「病院の実力(大阪編)」に不妊治療にまつわるインタビュー記事が掲載されました。また、あわせて附属病院の治療実績なども紹介されました。
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	NHK 「ニュースほっと関西」 (2016.2.12)	花粉症をテーマとしたコーナーにVTR出演し、家庭でできる花粉症対策や、花粉症とインフルエンザに同時に罹患する可能性、その症状についてコメントしました。
外科学講座 駒井 宏好 診療教授	毎日新聞 (2016.2.25朝刊)	「くらしナビ 医療・健康」のコーナーにおいて、総合医療センターで閉塞性動脈硬化症の治療を受けた女性の症例が紹介され、手術を担当した医師としてのコメントが掲載されました。
総合医療センター	読売新聞 (2016.3.5夕刊)	乳がんの診断・治療から乳房再建まで一括して行う「プレストセンター」の全国的な設置例の増加が取り上げられ、総合医療センタープレストセンターが紹介されました。また、形成外科学講座田中義人助教の「きれいな乳房再建には摘出段階から連携が必要だ」とのコメントも掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	読売新聞 (2016.3.9朝刊)	連載企画「医療ルネサンス」において「夜尿症」が取り上げられ、原因や治療について解説しました。また、症状に悩む小児の患者さんとその保護者に「恥ずかしい、隠したい気持ちを乗り越えて受診してほしい」と呼びかけました。
精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教	読売テレビ 「情報ライブ ミヤネ屋」 (2016.3.18)	スタジオ出演し、元プロ野球選手が覚せい剤取締法違反の罪で逮捕・起訴された事件について、覚せい剤が身体や脳に与える影響、薬物依存症の治療と支援のあり方などを解説・コメントしました。
精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教	読売テレビ 「ウェークアップ！ぶらす」 (2016.3.19)	覚せい剤取締法違反の罪で逮捕・起訴され保釈中の元プロ野球選手に関するニュースの解説者としてスタジオ出演し、薬物依存症患者の治療法である集団認知行動療法や条件反射制御法について説明しました。
健康科学教室 木村 穰 教授	リビング大阪 (2016.3.26)	加齢による「体形の変化」を取り上げた巻頭記事において、肥満度を判断する目安や体形維持の手段について解説しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

今回の広報誌は、卒業式・入学式に加え、総合医療センターのオープン、枚方病院(附属病院)の名称変更など、内容盛りだくさんの一冊となりました。

なお、二つの附属病院は一部を除き、新名称を用いて表記しました。新たな名称の浸透をはかる目的もあつての判断です。ご理解賜りますようお願い申し上げます。(こ)

関西医科大学広報 Vol.33

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成28年5月2日(月)発行

本学教職員一同、今回の熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一刻も早い復旧・復興を祈念しております。